

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

#### 教育目標

- 1) 豊かな知と健やかな心を育てる人間教育を行い、人々の幸福と社会の発展に貢献できる人材を育てる。
- 2) グローバル化の進む社会に適應できる英語力とコミュニケーション能力を身につけ、広く国際社会で活躍できる人材を育てる。
- 3) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

### 2 中期的目標

#### 1 男女共学校としての指導体制の確立

- ① 男女共学完成年度を新たなスタートと位置づけ、改めて建学の精神を基本とする教育目標を浸透させる。
- ② 伝統的な学校行事や式典において、より一層内容等工夫を凝らし、新羽衣スタンダードと呼べるものを構築する。
- ③ 今まで以上に、他者を思いやり円滑な人間関係の構築ができるよう支援し、人権を尊重する意識を育成する。
  - a) 人権に関する行事の事前事後指導や、「人権通信」を利用したHR活動を行う。
  - b) 生徒相談室や学校カウンセラーによるカウンセリングを活用し、相談体制を充実させる。
- ④ 将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。
  - a) 基本的な生活習慣が確立した生徒を育成。
  - b) 誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成。
- ⑤ 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。

#### 2 教育内容の充実

##### ① ICT化

- a) 全教室に完備されたPCとプロジェクターを利用し、各授業においてアクティブラーニングを推進する。
- b) 生徒には、折にふれタブレットを活用した教育活動を行う。教員にも個人に1台のタブレットを配布、生徒の学習状況の把握や指導に役立てる。
- c) 新しい教務システムを導入し、成績処理や各種書類作成をオンライン化、仕事の軽減につなげる。

##### ② 国際化

- 積極的に国際交流を行い、多様性を理解できる国際感覚とそれに裏付けられた語学力を育成する。
- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を諮り、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。
  - b) 本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を体験させる。
  - c) 英検を全学的に取り組み、合格者全体の増加と、上級への合格を目指させる。卒業後、海外大学進学者へのサポートを行う。

##### ③ 教員の資質向上

- a) 研究授業や公開授業は継続して実施。また、外部の研修にも積極的に参加させる。
- b) 授業アンケートは継続して実施、査定ではなく自己点検に役立てる。
- c) 若手教員には、教科指導やクラス運営について、ベテラン教員から今まで以上に助言と指導を行う。
- d) 学年主任や運営委員など、学校運営の主要ポストの人事では、未経験者を積極的に起用、経験を積ませる。また、ベテランがサポートにあたるような人事配当を行う。

##### ④ 施設・設備の充実

- a) 体育館の耐震化に向け、業者選定と工事計画策定に着手する。

##### ⑤ 共学化に伴う学校改革の検証

- a) 各コースのコース目標が達成できているか。
- b) 各コースのカリキュラムは、コースコンセプトに照らし適正なものになっているか。
- c) 生徒指導上の問題で、当初危惧した問題行動が起こっていないか。
- d) 行事とその内容、学校施設は、共学にふさわしいものになったのか。

#### 3 進路指導の充実

中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす。

- ① 4年制大学への進学率を75%以上にする。
- ② 国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。
- ③ 目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。
  - a) 英語を最重要受験科目として位置づけ、英検合格とリンクさせながら実力養成を図る。
  - b) 普通の授業においては、入試問題にも触れながら、生徒の意識を高め、課外では、具体的な大学名を提示しながら志望校への意識と合格への道筋を明らかにする。
  - c) 合否結果や成績との相関など上級生の受験データを下級生の指導に役立たせるよう、分析と対策を教員間で共有する。

#### 4 安全教育の推進

一人ひとりの生徒が安全に生活をおくれるよう、健康指導や非行・薬物乱用防止教室、交通安全教室、火災避難・防災訓練を開催する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見 (実施：平成 30 年 2 月)
<p>・昨年度と今年度を比較すると、昨年より評価が低くなっている項目が15、良くなった評価が6と、やや厳しい評価が出ていることは、学校としてまだまだ改善の余地がたくさんあると言わざるを得ない。この結果をどう分析し改善につなげるか、綻びが大きくなる前に対処していきたい。</p> <p>・「教員間の信頼関係」の点に関しては、急激に教員数が増え、特に年齢の若い教員が多くなり、ベテランとの意思の疎通という点で、難しいところが出てきたように思う。また、ICT化により、新しいことに慣れなければならないことが飛躍的に増え、仕事量の負担が大きくなって、同僚とのコミュニケーションを充分とるだけの時間が不足がちになった結果と推察する。やはり、学年の教員が足並みそろえないと生徒の指導にも影響が出るので、打ち合わせの時間はしっかりと取り、建設的な議論を重ね、お互いを理解できる心の余裕を持てるようにしていきたい。</p> <p>・学習面において、授業がわかりにくいという外部評価が30%となっている一方で内部評価はその半分の16%となっており、先生が思うほど生徒はわかっていないという状況は、教える側がきちんと理解しないとイケないであろう。ただ、すべて理解できるということは、内容が平易過ぎて生徒の学力にマッチしていない授業レベルであるので、深い内容まで取り組めばわかりにくいと思う生徒が増えるという、そのバランスが難しい。単元にもわかりやすい、教えやすいがあると思うので、各教科で一度検討させたい。</p> <p>・人権意識の醸成に関しては、年間を通してHRや講演会、映画会など、目先を変えながら人権学習ができているおかげで定着した。今後も継続して行いたい。</p> <p>・進路指導に関しては、本来家庭で考えたり調べたりする部分まで求められていることが多いと教員が考えており、その差異が大きく出ていると分析している。ただ、その点についても、学校に説明が不十分なところがあると思うので、今後は進路指導部を中心に、満足度が上がるよう保護者説明の仕方を担任にレクチャーするなど対策を立てたい。</p>	<p>・共学化と共に、学校の特色として打ち出した「国際化」「ICT化」「安全教育の推進」については、年を追うごとに学校内外とも高い評価が定着していることは喜ばしい。具体的な目標と活動とが一致している印象。今後は、これらの内容を一段高いレベルまで引き上げるためには何が必要かを模索する段階にきており、これはなかなか難しい課題であろう。大いに期待したい。その一方で、「教員間の信頼関係」が希薄であるという内部評価の結果は、大変重大であると学校関係者は受け止めていただきたい。外部の評価はそれほど低くないので、重篤な状況ではないと思うが、早急に解決していただきたい。</p> <p>・学習指導の面では、「わかりやすい授業」についての外部評価で低い評価が30%となっている。「わかりにくい」原因は様々であろうが、先生方には今一度ご自分の授業を検証していただき、この結果を真摯に受け止めていただきたい。幸い学校は参観授業や研究授業を実施されているようなので、これらの対策を継続的にを行い、特に若い先生方の授業力を上げていただけたらと思う。</p> <p>・生徒指導の面ではどの項目も高い評価で、共学化で懸念された問題もなく、順調に指導が浸透している状況がうかがえる。今後も気を抜くことなく、ふれずにこれまで通りの指導をしていただきたい。</p> <p>・進路指導に関しては、外部評価で「進路に関する情報が充分提供してもらえていない」と答えたのが33%もある。保護者のニーズと教員が提供すべき情報のずれは何なのか、原因を究明し改善しなければ、学校として進路保証もままならない。大変重要な問題である。</p> <p>・学校での実践活動があるのに、環境問題についての認識が低いようで、共通認識がもてるよう、広く啓蒙していただきたい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的な教育内容の確立	基本的生活習慣の定着をはかり、いじめの無い学校作りを推進する。	① 挨拶励行については、生徒自治会から「朝の挨拶運動」の呼びかけを学期に一度実施。教員からは、生徒指導部を中心に、「遅刻0週間」の設定と遅刻の多い生徒には、生徒指導部長・教頭からの説諭。 ② カウンセリングの充実。 ③ いじめのない学校作りをめざし、啓発と共にアンケートなどで、実態把握に努める。 ④ 「障がい者差別解消法」施行を受け、校内組織を作り、障がい者に対し合理的配慮が行えるように整備する。	① 遅刻者数を平成29年度終了時には、前年度比10%の減少を図る。また、生徒自治会の活動の一環と位置付け、委員会活動の活性化を促す。 ② カウンセラーの増員とカウンセリング回数を増やす。 ③ 年1回のいじめに関するアンケートの実施。生徒から情報提供しやすいようなシステム作り。 ④ コーディネーターの任命や特別指導委員会の設置、教職員への周知とケース会議から「個別の教育支援計画」の策定。	① 風紀委員会の啓蒙活動等は継続できたが、台風による南海本線不通の影響などがあり、遅刻数は増加。遅刻者には朝の挨拶運動に参加させる、保護者にも通達をして協力を仰ぐなど指導の強化に努める【×】 ② カウンセラーは1名増員でき、余裕を持って受診できる状態になった【◎】 ③ いじめかどうかははっきりしない段階で、早い目に臨時でアンケートを実施し、実態把握を行うなど、問題が大きくなる前に対処できた【◎】 ④ 要支援の生徒に対し、個別の支援計画とケース会議をもって、卒業・進路保証ができた【◎】
2 ICT化	各教室に設置されたICT機器の活用促進とタブレットの活用。	① プロジェクターやデジタル教科書の活用について、全教員に周知する。 ② 教員にタブレットを配布し、それを利用した教育活動の推進。 ③ アクティブラーニングの場面で、生徒がタブレットを利用し、調べ学習やまとめ、意見発表できるようにする。	① ICT関係の研修会を学期に1回以上行う。 ② タブレットの配布と、アプリの利用についての研修会を実施、生徒の学習状況の把握や実力テストの成績管理が1年を通して実施できるか。 ③ 生徒全員が、プレゼンや行事のまとめで、一度はタブレットを使用し活動できるか。	① プロジェクトレベルの会議は実施できたが、全員対象の研修会は年内1回しか実施できなかった。【×】 2020年度大学入試改革に向けて、実際にICT機器を使つての指導を全員が共有できる研修会を実施する。 ② タブレットの配布は、費用とネット環境の問題で実現できていない。【×】 タブレットの代わりにモバイルを利用した方法を探る。 ③ 一部の生徒のみ実施【×】実際の指導例を使つての研修会を実施し、使用を促す。
3 国際化の推進	生徒が、海外の生徒と触れ合う機会を増やし、英検合格へのモチベーションに繋げる。	① 中学・高校共、積極的に海外交流を受け入れる。 ② シドニーにあるメリデン高校、台湾高雄にある高級職業学校と、短期・長期の交換留学生を出す。 羽衣オリジナルプログラムの短期語学研修(3月末にカナダバンクーバー・8月にフィリピンセブ島)を実施する。 ③ 年に2回、学校全体で英検を受験。海外留学の目安となる英検2級合格者が一定数出るよう指導する。 ④ 海外大学への進学希望者への情報提供とアドバイス・合格指導を実施。	① 中学・高校とも、年間3回以上の交流を実施。 ② 交換留学生在が2名以上。カナダ語学研修に15名以上、フィリピン10名以上の参加。 ③ 台湾修学旅行は60名以上で催行。 ④ 学校全体で英検準1級3名以上、2級40名以上、準2級200名以上、3級500名以上の合格者を出す。 ⑤ 海外大学への進学者3名以上。 ⑥ 校内で、華語(中国語)講座を開講。	① 中学・高校共予定通りに交流を実施【◎】 次年度も積極的に受け入れたい。 ② 交換留学生の希望が出ず、今年度はなし。カナダ語学研修は9名、フィリピンは希望者がなし【×】 相手のあるところは仕方がないとしても、海外語学研修希望者が少ないのは、何が原因かを探り、生徒・保護者への広報を積極的に行う。 ③ 台湾方面は約60名で実施【○】 ④ 英検合格2級51名・準2級247名・3級565名【○】 ⑤ 台湾の大学へ2名進学【○】 他方面の大学にも進学者が出るような方向を探る。 ⑥ 校内華語講座は、最終9名までに増え、順調に開催できている【◎】
4 進路指導の充実	難関国公立大合格者輩出と中堅から難関私大の合格者倍増。	① 希望する4年制大学進学に向け、進路指導部、コース、学年が一体となり、進路指導を実施。 ② 各学年・各コースで、意欲ある生徒に対して課外授業を設定。特に高IIIでは、生徒の志望大学別課外の実施など、進路実現に向け、最大限の援助を行う。 ③ 大学見学会や外部の合同説明会に参加をさせ、学部を理解や志望校の情報収集ができる機会を設ける。	① 4年制大への進学率75%以上。 ② 国公立大学5名以上・関関同立50名・甲龍産近50名以上、羽衣国際大進学30名以上の合格実績。 ③ 上級生の課外授業で講座制を導入、30名以上の参加希望者ができるように指導。 ④ 高III3学期は最後の指導期間と位置づけ学年末考査を廃止、各志望分野・志望大学別の指導を行う。 ⑤ 各学年とも、年に数回は大学見学会や説明会に参加させる企画を作成。	① 4年制大学進学率66%【×】 ② 合格実績国公立2名・関関同立21名・甲龍産近16名、羽衣国際大進学16名【×】 入学時より低かった英語の学力が最後まで挽回せず。この結果を踏まえ、学習量全体の増加と授業の質向上を各教科で研究・実践する。 ③ 講座制は、実施できたが、回を追うごとに参加者が減少傾向【×】 担当者と担任、保護者とも連携し減少を防ぐ。 ④ 進路未決定者にとっては負担減となり好評であった【◎】 ⑤ 各学年、各コースとも年間計画に組み入れられていて、予定通り実施できた【◎】
5 行事と施設の見直し	年間行事の実施時期と内容を見直す。また、施設の点検と工事での安全確保。	① 年間を通して、行事や式典の整合性を図り、羽衣の新しい伝統として定着させる。 ② 情操教育の一環として生徒全員に、一流の芸術作品を鑑賞させる。 ③ 体育館の耐震診断と耐震工事、改装の計画と実施。	① 学園祭を9月上旬に実施。2学期を行事の少ない落ち着いた環境にする。 ② 全校生徒に年1回は、芸術鑑賞の機会を設ける。 ③ 今年度中に、体育館の耐震診断と施工業者の決定、工事計画の策定を行う。	① 予定通り、学園祭は9月上旬に実施。10月、11月と落ち着いた学習に取り組めた【◎】 ② 11月に生徒全員対象の音楽鑑賞会を実施。生徒の満足度も高かった【◎】 ③ 3月の施工業者決定は4月にずれ込み、次年度の工事日程がやや窮屈なものになる可能性も出ている【○】 4月早々に決定し、年度内の工事終了を目指し、業者と協議を行う。
6 各コースの検証	共学化に伴い新設したコースの検証。	① 中学2コース、高校3コースのコース目標は達成できているのか、進路実績と照らし合わせて検証する。 ② 各コースのカリキュラムは、生徒の実態に対し、有効なものになっているのか、実力テストの結果と合わせて検証する。 ③ 各コースは受験生のニーズに応えられ、また魅力を感じて志望者が確保できているかどうかを検証する。	① 学校生活アンケート結果により、生徒の満足度を測る。肯定的な回答が60%を超えているか。また、コースの進路目標と結果がマッチしているか、60%以上の達成があるか。 ② 定点観測的に行っているスタディサポートという外部テストのランクで、平均と伸長度をチェックする。 ③ 各コースの入学者数の推移を確認し、入試成績と併せ検証する。	① 個別の項目での凸凹はあるが、概ね満足度は高い結果となった【◎】 ② 全体的には、英語の下位層は減少。英検に取り組みせた成果が出ている。国語は学年進行と共に下にたまっていく。語彙力の向上が課題。国語と限定せず、すべての教科で言語活動について意識をさせる取り組みが必要【×】 ④ 中学は、2つのコースとも定員に満たない状況。高校は、II類コースと進学コースは順調に生徒数を伸ばしているが、I類コースは多かたつり少かたつりと安定性に欠ける。進路実績とリンクしている部分が多いので、実績を上げながら、志願者増につなげていきたい。【○】男子クラブの新設などで、男子生徒増を計り、進学コースも更なる志願者を獲得できるようにする。